



## このマークを見たことがありますか？



この「とまれ」のパンダのマークを見たことがありますか？どこにあるか知っていますか？これは、白鳥中学校の正門を出たところのT字路の所に、この冬に貼ってもらいました。ここは、一旦停止をしないと、車との接触事故が起きやすい大変危険な場所となっており、下校時にも先生に立ってもらい、交通指導をしてもらっている場所です。

学校から地域の自治会にお願いし、自治会の方から、鈴鹿市に頼んでいただいて、「とまれ」のシールをいただきました。T字路では、一旦停止をして、安全を確認してから、すすむようにしてください。

## 保護司さんが、学校のサポートをしてくれています。



保護司さんが、正門を出たT字路の所に立って、交通指導をしてくれました。



保健室前のサルビアです。冬になっても元気に咲いています。

正門の左側に立ててある旗です。保護司さんからいただきました。



### ●保護司とは

保護司とは、非行をした人の更生のサポートをしたり、犯罪予防活動をしたりしているボランティアの方（正式には非常勤の国家公務員）です。白鳥中学校での活動としては、合同地区補導に参加していただいたり、「社会を明るくする運動」の一環として、正門に掲げている旗をいただいたりしています。また、保健室前にあるお花のプランターも保護司さんからいただいたものです。

## 白鳥中学校区 人権フォーラム

11月24日(木)、白鳥中学校区の小中学校の児童生徒(小学6年生、中学2年生)が集まって人権フォーラムを開催しました。新型コロナ感染予防のため、杉の子特別支援学校の児童・生徒は不参加となり、映像での参加となりました。本年度は「違いを認めあう仲間づくり」をテーマとして、白鳥中学校の生徒が司会をしてレクリエーション(じゃんけん列車等)をした後、身の回りにある人権問題について、みんなで考え、意見を交流しました。



「いじめはいけないこと」という共通の認識はあったけれど、いじめやいじめている人の気持ちに対して思うことは少し違いがありました。

「普通という感覚は、人それぞれの中でいただく「自分だけの感覚」であるということが再認識できました。



## 学校図書館巡回指導員

昨今、学校での活動が多種多様化していく中で、教職員だけでは、生徒の活動を十分サポートできないことが増えてきました。そこで、外部から学校をサポートしていただく方がたくさんいます。今回は「学校図書館巡回指導員」という方を紹介します。

図書館巡回指導員の方は、だいたい週一回、図書館の整備をしてくれています。主な仕事として、本を選んだり、図書館の飾りつけを作成したり、古くなった本の除籍の手続きをしたりしてくれています。また、図書館の使い方を生徒に説明したり、図書館だよりを発行したりと、図書館をよりよい環境にしてくれています。

昨年度(令和3年度)に新たに購入・寄付された図書の本数は445冊となります。図書館にはどんどん新しい本が入ってきています。しかし、本年度(令和4年度)11月末時点での一人当たりの貸出冊数の平均は1.4冊と、まだまだ少ないです。

全国学力学習状況調査の質問の中の「平日どれくらい読書を読みますか」については、10分以内と全くしないと答えた生徒の割合が多く、時間をとって読書をする習慣に乏しい様子がみられます。「本や新聞を読む生徒は学力が高い傾向がある」という、学力との相関関係があるという報告もなされていますので、興味のある分野からでいいので「読む」「情報を集める」といったことを習慣化するために、3学期、図書館に足を運んで、本を色々借りてみてください。



